

外来種はどこでどんな問題をおこしているの？

日本は、国土は狭いのですが、その中にある環境はとても多様です。しかしいま、それぞれの環境において、外来種による問題がおきています。特に日本のような長い年月をかけて独自の生態系がかたちづくられてきた島国では、外来種の影響を受けやすいのです。

多様な環境での外来種問題の例



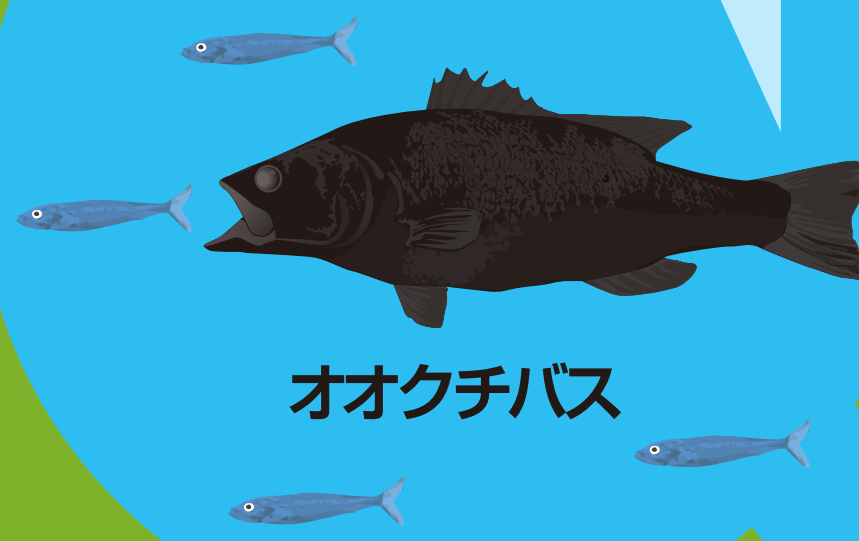
グリーンアノール

島嶼

小笠原諸島、沖縄島などに侵入しています。特に小笠原諸島では、オガサワラシジミなどそこにしかない希少な昆虫が食べられ、絶滅の危機にさらされています。

湖沼

日本中の湖沼や河川に侵入し、メダカなどの希少な魚や水生昆虫を食べ、絶滅の危機に追いやったり、水産業にも影響を出しています。



オオクチバス

湿原

全国の多くの湿原などで繁殖しています。場所によっては在来種の生育環境を奪うほどの大群落がつけられています。



オオハンゴンソウ

里地里山

ペットとして飼われていたものが捨てられ、全国の都市域から里地里山を中心に広く定着しています。在来種や農作物を食べたりして大きな問題になっています。



アライグマ

都市域

クモやアリなどの小さな生きものは貨物などに付着して意図せず運ばれています。全国の港湾地域や、更にそこから運ばれた都市域でも発見が増えています。



セアカゴケグモ

アルゼンチンアリ

コラム2

海外で問題をおこしている日本の生きもの

日本で外来種が問題となっているように、逆に日本から世界各地に導入されることで問題をおこしている生きものもいます。例えばクズは海外において、非常に高額な経済的損失を与えています。

世界各地で繁茂しているクズ



© JWRC

アメリカで深刻な農業害虫となったマメコガネ



提供：伊丹市昆虫館(長島 聖大)